



名前	派遣先	派遣期間
程 亮	中山大学 中国非物質文化遺産研究中心	2016年11月14日 ~ 2016年12月 4日
根敦阿斯尔	フランス国立高等研究院 東アジア文明センター	2017年 1月26日 ~ 2017年 2月15日
姜 明 采	ブリティッシュコロンビア大学 アジア学科	2017年 2月 8日 ~ 2017年 2月28日

中国の歴史文献における狐仙信仰

— 中山大学図書館の文献調査を中心に

程 亮

(歴史民俗資料科学研究科 博士後期課程)



2016年11月14日から12月4日まで、筆者は非文字資料研究センターの派遣研究員として、中国・広州にある中山大学 (Sun Yat-sen University, 略称 SYSU) 非物質文化遺産研究センターを訪問し、中国漢民族の狐仙信仰¹⁾ に関わる歴史文献の調査を行った。また湖北省の地方文献における狐仙信仰の記録を明らかにすることを目的として、武漢・湖北省図書館地方文献部、十堰市図書館地方文献センター、十堰市群衆芸術館非物質遺産保護センター、十堰・漢江師範学院漢水文化研究基地を訪れ文献調査を行った。

まず、中山大学図書館と中山大学非物質文化遺産研究センター資料室 (以下は資料室と略す) で狐仙信仰に関わる文献調査を行った。資料室は曲芸、民俗、非物質文化遺産などの研究書2万点、民族民間文芸集成300点、四庫全書、故宮珍本叢刊などを所蔵しているが、狐仙信仰に関わる文献は確認できなかった。



写真1 中山大学非物質文化遺産研究センター資料室

中山大学図書館は、603万点 (2015年12月現在) 以上の蔵書を有し、図書館4階の「特蔵庁」で新版の古典籍5万点、新版の

地方志1万5千点を所蔵している。古典籍は、四庫全書、敦煌文献、叢書集成、民国叢書、大蔵経などからなっているが、地方志は新中国成立後のものが多く、地域別に並べられている。今回の主な調査目的は清朝の古典『聊齋志異』、『閔微草堂筆記』、『夜譚隨録』、『螢窓異草』、『新齊諧』に記載されている狐仙の話であるが、中山大学図書館「特蔵庁」で全て確認できた。

また、中山大学図書館で「中国基本古籍庫」、「中国方志庫」、「中国類書庫」という三つのデータベースを利用し、狐仙に関わる文献調査を行った。上述した三つのデータベースは中国企業の愛如生が製作した大型データベースである。「中国基本古籍庫」は先秦から民国までの約1万種にのぼる資料が収録されており、18世紀に清朝が総力を挙げて編纂した『四庫全書』の約3倍に相当し、思想、文学、言語、歴史、美術、宗教等々、中国に関するあらゆる分野の知識へのアクセスを提供するものである (U-PARL (東京大学アジア研究図書館) HPより抜粋)。



写真2 「中国基本古籍庫」データベースの検索画面

「中国方志庫」は漢魏から民国初頭までの1万種にのぼる地方志類の著作を、原版の図像を付して収録するデータベースである。版本画像データ (1200万頁) とテキストデータ (17億字) を収録する。

「中国類書庫」は時代の最も古い類書《皇覽》、規模の最も大きな類書《古今圖書集成》、稀覯本《永樂大典》及び明代の日用類書などを含む、魏晉から清末民初までの代表的な類書300余部、26,917巻を収録する。類書は「博採群書、分類纂輯」という特徴を持っており、情報量が極めて多い上、すでに消失した典籍の一部の内容を保存しているため、その学術的価値が高いと思われる。

筆者は上述した三つのデータベースで「狐仙」というキーワードで計145件の事例を検索できた。具体的には、「中国基本古籍庫」92件、「中国方志庫」51件、「中国類書庫」2件ある。更に、「狐神」というキーワードで「中国基本古籍庫」50件、「中国方志庫」25件、「中国類書庫」27件、計102件の事例を検索できた。上記の事例に基

づき、「狐仙」と「狐神」の実態を比較し、歴史文献における「狐仙」の性格を明らかにしたいと考える。

広州・中山大学での調査が終わってから、筆者は高速鉄道に乗って湖北省の武漢市と十堰市に移動し、武漢・湖北省図書館地方文献部、十堰市図書館地方文献センター、十堰市群衆芸術館非物質遺産保護センター、十堰・漢江師範学院漢水文化研究基地において狐仙信仰に関わる地方文献調査を行った。

湖北省図書館は中国最大の建築面積（3万平方メートル）を持つ省級図書館で、400万点以上の蔵書（そのうち、45万点は古籍書）を有している。図書館の5階に地方文献部と歴史文献部がある。歴史文献部に新中国成立の歴史文献が時代別に並べられているが、中に入って閲覧することができず、カウンターに請求票を出して申し込み、その場で読むしかない。地方文献部に新中国成立後の地方志が地域別に並べられており、自由に閲覧できる。今回、民国10年原刻版の『湖北通志』108冊を確認できた。『湖北通志』は最も広く読まれる湖北省の地方志であり、上古から宣統3（1911）年までの湖北地方の歴史が記載されている。また、湖北省西北地域の地方志を調べた。清朝編纂の『中国地方志集成・湖北府県志輯58 同治鄖陽志』、『同志輯59 同治鄖陽志、同治房県志』、『同志輯60 同治竹谿県志』、『同志輯61 光緒統輯均州志 同治竹山県志』、『同志輯62 同治鄖西県志』5点と新中国成立後の『湖北省志・民俗方言』、『十堰市志』、『丹江口市志』、『武当山志』、『房県志』、『鄖県志』、『鄖西県志』、『竹山県志』、『竹谿県志』、『茅箭区志』、『張湾区志』11点を確認できた。

十堰市図書館、十堰市群衆芸術館、漢江師範学院では、主に地方の民俗研究書を調べた。『伍家溝村民俗与研究』、『呂家河民歌村民俗与研究』などの研究書において、狐仙信仰や邪症治療に関わる記載を確認できた。

筆者は2014年から2016年まで、湖北省西北部の山村部において狐仙信仰の現地調査を行った。まず、当地の村で口頭伝承されている狐精故事²⁾を採集、類型化し、その特徴をまとめた。また、狐仙祭祀の実態を記録し、東北地方と華北地方の事例を比較しながら、その特徴を明らかにした。これまでの現地調査を踏まえ、今回の文献調査と比較しながら、湖北省西北部における狐仙信仰の歴史の変遷を明らかにすることが可能になると考え

られる。

今回の調査において、自分の研究課題に関わる大量の文献資料を得ることができたばかりでなく、2016年11月19日に中山大学非物質文化遺産研究センターで、「民俗学“日常生活”転向的可能性」シンポジウムに参加することによって、中国民俗学研究の最前線を体験することができた。このような機会を与えてくださった中山大学非物質文化遺産研究センターの王宵冰教授、康保成教授、蔣明智教授、劉曉春教授、チューターの陳熙さん、神奈川大学非文字資料研究センターの内田青蔵先生、事務の成田紅音さんをはじめ、お世話になった皆様に心よりお礼申し上げたいと思う。



写真3 「民俗学“日常生活”転向的可能性」シンポジウム（後列左から4人目が筆者）

【参考文献】

1. 胡堃 1992 「中国古代狐信仰源流考」藤井良雄訳注、『福岡教育大学紀要』41（1）：19-31
2. 程亮 2016a 「狐精故事の類型と特徴——湖北省丹江口市六里坪鎮伍家溝村の口頭伝承を事例に」『歴史民俗資料科学研究』21号：57-80
3. 程亮 2016b 「狐仙信仰の現在——湖北省丹江口市の農村社会における大仙・西仙祭祀をめぐる」『比較民俗研究』30号：109-126

【注】

- (1) 狐仙信仰は中国北方地域で最も普遍的な民間信仰の一つで、古代から狐信仰として発生し、やがて狐神から狐仙へ移行したのである（胡堃 1992）。
- (2) 中国民俗学界では、狐の嫁入りや狐の祟りなどの狐話が「狐精故事」と呼ばれる。

フランスにおける仏教の研究

—チベット仏教への関心を事例として—

根敦阿斯尔

（歴史民俗資料科学研究科 博士後期課程）



はじめに

現在、筆者はチベット仏教寺院における「伝統と革新」

の調査・研究を進めている。今回、2017年1月26日から2月15日までの3週間に渡り、フランス国立高等